

平成 29 年(2017 年)以降の全日本オリエンテーリング大会のあり方について 第2次中間報告とパブリックコメント募集(2015 年 10 月 21 日募集開始) に対する応募内容の公開

平成 28 年(2016 年)1 月 1 日
公益社団法人日本オリエンテーリング協会
全日本オリエンテーリング大会を考えるワーキンググループ 2015 座長 木村佳司

多くのパブリックコメントが寄せられました。その内容を公開します。
公開するにあたって、個人情報に配慮して、最小限の編集を入れました。

競技者

全日本の中間案は短期的に現状を継続するものと言うことなので全面的に賛成する。全日本リレー、ミドル、スプリントが何れ全日本のような課題に直面するのではないかと危惧している。

JOAの財政改革に対して対話集会やOL-MLで大いに盛り上がっている。全日本大会の改革についても財政改革や活性化と密接な関係があり、どれが欠けても駄目で同時に取り組む必要がある。改革を行うには盛り上がっている今が絶好のチャンスである。現状の大会を将来とも継続実施する方向でなく、歴史やしがらみを全て捨てゼロベースから考え直した改革を行うべきだと考える。求められているパブコメから大きく視点がずれるが他に提案する適当な場がないのであえてこの場をお借りする次第です。

1. 現状の問題点

全日本規模の大会は学連主催大会も含めると、全日本、全日本リレー、全日本ミドル、全日本スプリント、インカレロング、インカレリレー、インカレミドル、インカレスプリントと8種目に達する。学生オリエンティアが全種目に参加するのは到底無理な話である。社会人オリエンティアが全4種目に参加するのも経済面からも時間面からも難しい。優勝者の輝きは大会数が増えるに従い低下する。地域クラブがあってこそ成り立つオリエンテーリングである。8種目も大会があるのに地域クラブは全く表面に出ていない。また、狭い日本でトレインの確保に困難があり、開催面から大変な労力を要している。

2. 大会の集約化

日本オリエンテーリングの祭典は1本に集約すべきだと考える。学生、社会人も全てのオリエンティアがこの祭典へ向けて個人の成績のためクラブの名誉ため参加する。名実共に日本一のオリエンティアと日本一のクラブを決るのである。最高のトレイン、最高の地図、魅力ある最高の大会を提供する。まさにわくわくした大会となり参加費をマラソン大会並みに値上げしても見返りがあるため参加者は千人を楽々超えるだろう。

3. 全日本リレー廃止してクラブ対抗に

全日本リレーは活性化への結びつきが少なく弊害の方が多くなっている。一部の都道府県が優勝カップを競って益々強くなって下位都道府県は下位のままである。実力の格差がある都道府県が競ってどんなメリットがあるのか？。ますます格差をつけてしまう。一部都道府県協会の活性化望めるがクラブの活性化には結びついていない。都道府県リレーは廃止してクラブ対抗に代え全日本大会に1本化する。オリエンティアが大会で走ることにより個人成績とルールで定められた点数からクラブの成績を決める。

学生クラブと年齢層の異なる地域クラブの点数をどうするか、女性オリエンティアをクラブに中にどう位置づけるか課題が多いが

専門部会で検討し決めれば良い。学生クラブと地域クラブが対抗する構図が大切である。学生クラブは強くなるため入学生を勧誘してオリエンティアを育てるだろうし、地域クラブは強くなるため卒業オリエンティアを獲得しなければならない。活性化のために一石二鳥の策だと考える。今回の改革でクラブ対抗は取り入れることは可能なので実施したらどうか。

地域クラブもほっておけば、都道府県リレーと同じように強いクラブは益々強く、弱いクラブは弱いままとなる。地域クラブの定義、地域クラブと広域クラブの関係など解決すべき課題が多い。地域クラブへの支援策を全く行って来なかったつげが地域クラブの衰退、ひいてはオリエンテーリングの衰退となっているのではないか。

4. ミドルとスプリント

競技の性質上集約は出来ないスプリントとミドルは1日目に、2日目にロングを行う。個人成績は3種目を合わせて総合優勝を決める。この総合優勝者が正にトップオリエンティアとして1年間君臨する。この方式によりミドルもスプリントも参加者が増え盛り上がる。3種目合わせて平均1万円の参加費でも千人が参加すれば1千万円の予算で大会が運営できる。1種目の参加費は3500円となり、何と現状より値下げになるのではないか。参加者にとっても年1回の参加費と遠征費になるので経済的にも時間的にもなメリットがある(多数回参加したいオリエンティアには反対されるが)。開催時期は学生が参加可能な年度末か夏休みの何れかにすれば良い。夏休みは体力的に問題があるのでやはり年度末が良い。

5. 全日本のトレイン

数カ所の全日本用トレインを決め繰り返し3回ほど使用する。他の大会には使用せず、3回程度使用して他の大会へ開放する。この方式なら3年に一カ所の新トレインを開発すれば良い。トレイン開発委員会を設置しこの任に当たらせる。公有林、自衛隊演習地、休止ゴルフ場など全国的な規模で探したらどうか。そして関係者と交渉して新トレインを決定する。

競技者

(2)生涯スポーツ

・「参加者がいる年齢区分を上限とする」→「参加者が*人以上いる年齢区分を上限とする」としてはどうでしょうか。大会は他選手と比較できてこそ意味があります。参加者が一人だけのクラスは無意味です(自分で勝手にコースを組んで走れば良い)。また参加者が3人だけしかいなくて完走すれば表彰という状況もよく見かけますが、これも選手にとって嬉しいかどうか。私とその立場なら勝負としての面白みに欠けるし1年間の目標として目指すに値しないと感じると思います。1つのクラスに最低でも6人くらいは参加者がい

ないと大会の意味をなしません。なのでクラスを細分化し過ぎるべきではないし参加者の少ないクラスをいたずらに作るべきでもありません。

・「16-18歳」「19-20歳」「21-22歳」というクラス分けにも疑問を感じます。インターハイやインカレには無い全日本の売りは何ですか？高校生と大学生が同じ土俵で競える、大学生と社会人が同じ土俵で競える、そのメリットをなくすべきではありません。年齢で分けるにしても例えば「16-17歳」(インターハイでは3年生が強すぎて勝ち目のない1年生・2年生に勝利の機会を与える)、「18-21歳」(実力ある高校生を大学生と競わせる)、「22-34歳」(大学4年生を社会人と競わせる、それを通じて地域クラブに目を向けてもらう)みたいな分け方なら有りかな、と思います。(これまで通り M21A1、M21A2 で特に問題があるようには思えません)

(4)日本オリエンテーリング協会主催・主管

・「全日本大会開催にあたって、開催地の会員(都道府県協会)は協力する」→「全日本大会開催にあたって、開催地および隣接地の会員(都道府県協会)は協力する」としてはいかがでしょう。競技者登録値上げに関する orienteer-ML での議論の中で JOA の存在意義や身近さを疑問視する声が挙がっていました。JOA の存在意義が認められるには JOA を媒介して人と人の交流が促進されることが大事で、せつかく JOA が直接主管するのですから都道府県の枠を超えて運営者を募集すると良いと思います。もちろん人の少ない都道府県で開催する場合の役員数確保の意味合いもあります。

(5-3) 全日本大会の参加費について

・参加費を上げるのは財政上やむを得ないとしても、ただ上げたのでは競技者登録費の二の舞になるだけです。参加費を上げて参加者数が減らないような工夫が必要です。一案として「大会会場となる体育館等を前日から借り切り、参加者に無料宿泊所として提供する」を提案します。オリエンテーリング関係の費用の中で大きなウェイトを占めるのは参加費ではなく交通・宿泊費です。参加費が値上がりしてもその分だけ宿泊費が安く抑えられればトータルの出費は変わりません。その点を PR することで参加者が減らないようにします。体育館を前日から借りれば当日朝の運営も楽になり一石二鳥だと思います。

東京都オリエンテーリング協会

日本オリエンテーリング協会 全日本オリエンテーリング大会を考えるワーキンググループ 2015 が「平成 29 年以降の日本オリエンテーリングのあり方についてまとめた第 2 次中間報告」についてのパブリックコメントを開始したのを受けて、東京都オリエンテーリング協会は参加加盟クラブへのパブリックコメントの周知及び意見の収集を行うと共に、12 月の理事会において理事の方々の意見交換を行った。

この結果、第 2 次中間報告で全日本オリエンテーリング大会改革案について、東京都オリエンテーリング協会として賛成であるとの結論に達した。

1. 『生涯スポーツとしてのオリエンテーリングの祭典として、全ての年齢層の競技者の目標となる競技会を目指す。』という【全日本大会の定義】については賛成である。すべての年齢層のオリエンティアが目指す、楽しむ大会にすべきである。

2. 【基本方針】に挙げた 4 つの考え方については賛成である。毎年開催、男女別年齢別選手権競技、ロングディスタンス競技の日本選手権という 3 つの従来の考え方についてはその考え方を堅持すべきである。

・毎年開催：毎年開催は全日本大会の基本である。隔年開催へ

の移行は衰退の一步である。

- ・男女別年齢別選手権競技：生涯スポーツとしてのオリエンテーリングの祭典を目指すのだから男女別年齢別選手権競技は必須である。現在のクラス分けを基本とし、高齢者層については、参加者がいる年齢区分を新しく設定することを提案する。
- ・ロングディスタンス競技の日本選手権：ロングディスタンス競技はオリエンテーリング競技の基本中の基本である。ロングディスタンス競技の日本選手権を毎年実施することに意義がある。

地域ブロックによる会員主管を JOA 直轄主管に変更することに賛成である。今までどうにかこうにか地域ブロックによる会員主管で全日本大会を実施してきたが、地域ブロックによる会員主管はテレイン開発、全日本大会の運営等で地域ブロックの会員に無理を強いているのではないだろうか。

ここで、JOA 直轄主管という新しい考え方を導入し、毎年開催、男女別年齢別選手権競技、ロングディスタンス競技の日本選手権という 3 つの考え方を永続的に実現するための新しい舵を切るべきである。

今回の改革案では JOA の中に全日本大会実行委員会の設置を提案しているが、この改革案が成功するかしないかは全日本大会実行委員会の成否にかかっている。適切な人材を配置し、強いリーダーシップをもって実行していくことを期待している。

東京都オリエンテーリング協会としてもこの全日本大会改革案を応援していきたい。

以上

競技者

以下について、パブリックコメントを出します。

- ・クラス分け(男子のみ、女子は別途実態をみて考慮)

公認大会のクラス分けは、3 月 31 日時点を廃止し、世界に合わせるために、12 月 31 日に変更する。

3 月 31 日を残すべきではない。

若年層は、学連および高校生で次のようにする。

19-20 歳(大学 1,2 年のみ学齢で判断) 現インカレで約 400 人弱

21-22 歳(大学 3,4 年のみ学齢で判断) 現インカレで約 300 人弱

23-26 歳 現状約 60-70 人程度 (120-130 人程度を目標とする)

27-30 歳 現状約 40 人程度 (70 人程度を目標とする)

ここはオリエンティアの実に 2/3 の人口があり、クラス細分化が全く足りてない。

各クラス優勝者(または多ければ 2 位も)、エリートに強制的に昇格させる。

エリートでは残留基準を設定する。(順位 1/3 以上を 1 回か、順位 2/3 以上を 3 回)

表彰台を多くの人に経験させることは、この年代の競技性での訴求に大変寄与する。(シクロクロスをモデルに書いていますが)

- ・コース設定

「広範囲で地図を作成することが難しい場合、地図交換などによってコース距離を確保し、ロングディスタンス競技日本選手権大会の規定競技時間を確保する。」

とあるが、これは結果である。手段について述べておらずむしろ悪い結果を招きかねない。漠然クライテリア確保できる最低限の望ましいガイドラインを設定すべきである。

例えば最も簡単なのは、『優勝設定タイム(分)÷5を超えないコントロール数(除く最終コントロール)』に制限するである。コントロール間の平均所用時間が5分(以上)は大変目安として妥当であり、むしろ距離や登距離に捉われない、自由度の高い、ロングに相応しいのコース設定が可能である。

競技者

意見 この「第 2 次中間報告 全日本オリエンテーリング大会改革案」は、極めて妥当なものであり、この形態での実現を強く希望する。

補足のコメント

- (1) この改革案の実質的なポイントは、
 - ・JOA直轄主管で実行委員会を常設
 - ・プロフェッショナルの全面的な参画・参入の 2 つではないかと思う。今後の検討の中でこの 2 点を崩すことのないようにお願いしたい。
- (2) 実行委員会の委員構成の半数は、大学卒業後 1～5 年（～10 年でもいいか）の者を任命する。社会人として超多忙な時期に当たるが、実務はオリエンテーリング事業者が当たることを考えれば不可能ではないであろう。
- (3) ボランティアによる運営はすでに限界であり、必然的にオリエンテーリングイベント事業者の主体的な参画は時代の要請と考える必要がある。

以上

（パブリックコメント応募内容ここまで）